



神谷 直子 議員

東京都千代田区の麹町中学校では、学校の当り前を見直して改革が進んでいる。高浜市の学校の当り前を考えてみませんか？

問 学校で出される宿題は一律ではなく、個人の学力に合わせているか？

答 宿題については、全員に同じものが出されている

のが現状だが、個人個人の学力に合わせて出すように指導している。

問 個人を尊重し多様性を認める取り組みについて、感情コントロールの苦手な子どもに対して、どのように取り組んでいるか？

答 支援が必要な子どもに対しては、さまざまな方法で個に応じた取り組みをしている。また福祉部とも連携をし、保護者支援も進めている。

問 校則について、どのように考えているか？

答 昨年の猛暑に対しては、体操服登校の実施等、各校の必要に応じ検討されるべきである。

問 不登校児童・生徒の対応は？

答 高浜市は全国比率より高い。要因はさま

ざまだが、学力不振が大きいと考えられる。新たな不登校児・生徒を出さない工夫をしている。不登校対策教員の配置をし、子どもたちに精神的な面からの心の支援をしている。

問 生徒の自主性を促すための工夫は？

答 生徒会活動以外でも、生徒の自主性を引き出すためのリーダー育成に力を注いでおり、両中学校でリーダー研修会を実施し、取り組んでいる。生徒・保護者や地域環境が違えど、子どもより良い成長を願う学校・教職員の想いは同じであり、教育実践に取り組んでいる。

高浜市と日本の国を愛する 子どもを育む取り組みについて

問 高浜市の伝統や文化を、子どもたちは体験しながら学んでいます。自己肯定感を高め、高浜市を愛する子どもを育てるための工夫は？

答 自己肯定感は、自分を大切に価値ある存在だと思う心で、家庭で愛情を持って育てられた子どもは自己肯定感が高い。園や学校でも愛情を持って接し、成功体験を重ねて自信をつけさせている。発達や成長段階に合わせたステージをつくり、力を発揮させる場をつくっている。



柴田 耕一 議員

下水道事業について

問 下水道事業は、生活環境の改善、水質保全といった市民生活に不可欠な事業であるが、当市関連の衣浦東部流域下水道区域は小さく、将来的にも経営環境は厳しい状況が予想される。しかし非効率な現状でも、

サービス等は安定的に継続していく必要がある。そこで、下水道整備の現状と普及率について。

答 平成29年末までの下水道整備状況は、工事に着手した平成3年から27年が経過し、供用開始した平成10年からは既に20年が経過している。供用開始区域面積は508.9haで、下水道全体計画区域面積890haに対し整備率は57.2%、認可事業計画予定処理区域面積632.4haに対する整備率は80.5%である。住民基本台帳人口普及率は4万8,292人に対し60.9%となっており、その内、2万3,747人の市民に下水道を利用いただき、水洗化率は80.7%となっている。今後も水洗化率向上を図るために補助制度

のPR、戸別訪問等を実施し、制度の周知及び早期接続の啓発を行い、下水道の普及促進に努めていきたい。

問 下水道の維持管理について。

答 20年が経過していることもあり、維持管理費は前半の10年と後半の10年とは4倍強の増加傾向にあるが、平成28年度から、布設年度の古いものから順に管渠（かんきょ）の巡視点検を行って適切な維持管理に努めている。

問 特別会計から企業会計へ移行したことによるメリット・デメリットについて。

答 メリットは、経営状況・財政状態が明確になり、各種経営指標を基に経営分析ができることで、長期的に安定した下水道サービスの提供等の取り組みが可能になる。

デメリットは、複式簿記等の採用で仕訳や伝票処理等に手間と時間を要し、専門知識習得にも時間を要することであるが、財務規定等の適用により一層のコスト意識、経営意識を持つことで、最小経費で最大効果が得られるよう創意工夫をもって経営改善に取り組み、下水道事業の適正な維持管理に努めていきたい。